

令和2年度特別支援学校教員資格認定試験問題（第1次）

教職に関する専門的事項に関する科目

（問1～問20 全20問）

時間 12：40～13：40

注 意 事 項

1. 試験監督者から「解答始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題冊子は、表紙を除いて10ページあります。
3. 解答用紙（マークシート）の指定された欄に氏名、受験番号を記入し、科目名と受験番号の該当する○を丁寧に塗りつぶしてください。
4. 解答は、解答用紙の解答欄の該当する○を丁寧に塗りつぶしてください。
5. この試験の解答時間は、「解答始め。」の合図があつてから、60分です。
6. 当該試験開始から終了までは、退室できません。ただし、発病等やむを得ない場合には挙手をし、試験監督者の指示に従ってください。
7. 問題冊子の余白は、下書きに使用しても差し支えありません。
8. 試験監督者から「解答やめ。」の合図があつたら、直ちに解答をやめて鉛筆を置き、問題冊子を閉じてください。
9. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問 1 「児童の権利条約」に関する記述として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 18 歳未満のすべての者を「児童」と定義づけている。
- イ 1989 年のユネスコ会議において全会一致で採択された。
- ウ この条約は、1924 年の「児童の権利に関するベルサイユ宣言」が基となっている。
- エ この条約の内容は、特定の国の文化や法制度に依拠している。

問 2 次の文章は中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成 23 年 1 月 31 日）の「第 1 章 キャリア教育・職業教育の課題と基本的方向性」の一部である。□①□，□②□ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〈基礎的・汎用的能力の具体的内容〉

「人間関係形成・□①□能力」「自己理解・自己管理能力」

「□②□能力」「キャリアプランニング能力」

- ア ① 社会形成 ② 課題適応
- イ ① 社会調整 ② 課題対応
- ウ ① 社会形成 ② 課題対応
- エ ① 社会調整 ② 課題適応

問 3 次の文章は『生徒指導提要』（平成 22 年 3 月文部科学省）の中で、「教育相談でも活用できる新たな手法等」として示された内容である。この手法名として正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

「主張訓練」と訳されます。対人場面で自分の伝えたいことをしっかり伝えるためのトレーニングです。

- ア ソーシャルスキルトレーニング
- イ アサーショントレーニング
- ウ アンガーマネジメント
- エ ライフスキルトレーニング

問 4 「学校事故対応に関する指針」(平成 28 年 3 月文部科学省)において、学校や学校の設置者等に対して求めていることとして誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 保護者や地域、関係機関等との連携・協働体制の整備
- イ 学校内や学校設置者から学校への事故事例の共有
- ウ 学校の管理下及びそれ以外で発生した死亡事故及び重篤な事故についての学校から設置者等への報告
- エ 学校設置者による死亡事故についての検証・分析

問 5 「教育基本法」(平成 18 年法律第 120 号)の条文として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 第 4 条第 2 項 教育委員会は、障害のある者が、その障害の状態に応じ、十分な教育を受けられるよう、教育上必要な支援を講じなければならない。
- イ 第 5 条 国民は、その保護する子に、別に法律で定めるところにより、義務教育を受けさせる権利がある。
- ウ 第 6 条 法律に定める学校は、公の性質を有するものであって、国、地方公共団体及び法律に定める法人のみが、これを設置することができる。
- エ 第 9 条 法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず教育実践に励み、その職責の遂行に努めなければならない。

問 6 学校運営に関する事項とその決定者の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 市町村又は都道府県の設置する公立学校の学期並びに休業日
- ② 感染症の予防による学校の臨時休業
- ③ 感染症の疑いがあるときの児童生徒の出席停止
- ④ 非常変災による臨時休業

	①	②	③	④
ア	教育委員会	学校の設置者	校長	校長
イ	学校の設置者	校長	教育委員会	校長
ウ	校長	校長	学校の設置者	教育委員会
エ	校長	教育委員会	学校の設置者	学校の設置者

問 7 「不登校児童生徒への支援の在り方について」（令和元年10月25日付け元文科初第698号文部科学省初等中等教育局長通知）で示されている不登校児童生徒を支援する上での基本的な姿勢及び対応策に関する説明として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 不登校児童生徒への支援は、「学校に登校する」という結果のみを目標にし、児童生徒が学校に通いやすいような環境整備に努める必要がある。
- イ 校長のリーダーシップの下、教員だけでなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等、様々な専門スタッフと連携協力し、組織的な支援体制を整えることが必要である。
- ウ 学業のつまずきから学校へ通うことが苦痛になる等、学業の不振が不登校のきっかけの一つとなっていることから、児童生徒が学習内容を確実に身に付けることができるよう、指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図ることが望まれる。
- エ 不登校児童生徒の一人一人の状況に応じて、教育支援センター、不登校特例校、フリースクールなどの民間施設、ICTを活用した学習支援など、多様な教育機会を確保する必要がある。

問 8 平成 29 年 4 月に「教育公務員特例法」(昭和 24 年法律第 1 号)が改正された。改正内容と照らして誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 公立の小学校等の校長及び教員の任命権者は、指針を参酌し、その地域の実情に応じ、当該校長及び教員の職責、経験及び適性に応じて向上を図るべき校長及び教員としての資質に関する指標を定める。
- イ 公立の小学校等の校長及び教員の任命権者は、指標を踏まえ、当該校長及び教員の研修について、毎年度、体系的かつ効果的に実施するための計画を定める。
- ウ 公立の小学校等の校長及び教員の任命権者は、指標の策定に関する協議並びに当該指標に基づく当該校長及び教員の資質の向上に関して必要な事項についての協議を行うための協議会を組織する。
- エ 公立の小学校等の教諭等の任命権者は、当該教諭等に対して、その在職期間が十年に達した後相当の期間内に、個々の能力、適性等に応じて、教諭等としての資質の向上を図るために必要な事項に関する研修(十年経験者研修)を実施する。

問 9 次の文は「教育の情報化に関する手引」(令和元年 12 月文部科学省)におけるインターネットの特性のうちの一つとして示されているものである。この文の示すインターネットの特性として正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

情報をやり取りする費用は発信者だけではなく、受信者も負担しなければならないため、相手にとって必要のない情報を大量に送り付けることは迷惑であること、インターネットは公共の資源なので、無駄な情報を大量に送受信することは資源の無駄遣いになることを理解させることが重要である。

- ア 公開性
- イ 信憑性
- ウ 公共性
- エ 流出性

問10 「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」(平成29年3月文部科学省)の「第1 学校の設置者及び学校の基本的姿勢」の内容に照らして誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア いじめを受けた児童生徒やその保護者のいじめの事実関係を明らかにしたい、何があったのかを知りたいという切実な思いを理解し、対応に当たる。
- イ 学校の設置者及び学校として、自らの対応にたとえ不都合なことがあったとしても、全てを明らかにして自らの対応を真摯に見つめ直し、被害児童生徒・保護者に対して調査の結果について適切に説明を行うこと。
- ウ 重大事態の調査は、民事・刑事上の責任追及やその他の争訟等への対応を直接の目的とするものである。
- エ 学校の設置者及び学校は、詳細な調査を行わなければ、事案の全容は分からないということを一に認識し、軽々に「いじめはなかった」、「学校に責任はない」という判断をしないこと。

問11 次の文章は「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」(平成31年1月文部科学省)の一部である。 ～ に入る数字の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

(2) 上限の目安時間

- ① 1か月の在校等時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が、 時間を超えないようにすること。
- ② 1年間の在校等時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が、 時間を超えないようにすること。

(3) 特例的な扱い

- ① 上記(2)を原則としつつ、児童生徒等に係る臨時的な特別の事情により勤務せざるを得ない場合についても、1年間の在校等時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が、 時間を超えないようにすること。

	A	B	C
ア	45	540	1080
イ	30	180	360
ウ	30	240	480
エ	45	360	720

問12 コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の説明として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 学校運営協議会の設置は努力義務である。
- イ 学校運営協議会の委員の任命は、校長が行う。
- ウ 学校運営協議会が、学校運営の基本方針を作成する。
- エ 市区町村教育委員会は、学校運営協議会の意見を尊重し、教職員の任用を行う。

問13 「中学校学習指導要領」（平成29年文部科学省告示第64号）の「第1章 総則 第4 生徒の発達の支援 1 生徒の発達を支える指導の充実」の内容に照らして正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。また、主に集団の場面で必要な指導や援助を行う生徒指導と、個々の生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行う進路指導の双方により、生徒の発達を支援すること。
- イ 生徒が、自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送る中で、現在及び将来における自己実現を図っていくことができるよう、生徒理解を深め、学習指導と関連付けながら、生徒指導の充実を図ること。
- ウ 生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、進路指導の充実を図ること。その中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進学指導を行うこと。
- エ 生徒が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、生徒や学校の実態に応じ、一斉指導やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れることや、生徒の協働による学習体制を確保することなど、指導方法や指導体制の工夫改善により、個に応じた指導の充実を図ること。

問16 日本の明治期から昭和期の間に関わられた教育制度に関する法令について、歴史的に古い順に正しく配列されているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 「学 制」→「諸学校令」→「国民学校令」→「教育令」
- イ 「教育令」→「学 制」→「国民学校令」→「諸学校令」
- ウ 「学 制」→「教育令」→「諸学校令」→「国民学校令」
- エ 「教育令」→「諸学校令」→「国民学校令」→「学 制」

問17 ピアジェ (Piaget, J.) の発達理論に関する記述として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 感覚運動期の子供は、感覚から得られた情報と自らの身体運動によって外界を認識する。この時期の後半には、対象の永続性の認識が獲得される。
- イ 前操作期にみられる特徴に脱中心化がある。これは、自他が未分化であるため、他者の視点に立って物事を理解することが困難なことをいう。
- ウ 具体的操作期では、具体的な事象については論理的な推論が可能になり、前操作期では困難であった保存の概念の理解ができるようになる。
- エ 形式的操作期では、ものごとを抽象的に捉えることが可能になり、仮説演繹的な検討をしたり、確率の概念なども理解できたりするようになる。

問18 次の学習の理論に関する各記述とそれぞれの提唱者との適切な組合せを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- 1 試行錯誤学習の研究では、問題箱と呼ばれる装置に入れられた動物が外に出ようとする様子を観察することを通して、動物が繰り返し問題箱に入れられる中で脱出に費やす時間が減少していくことが明らかとなり、効果の法則が提唱された。
- 2 オペラント条件づけの考え方をもとに開発されたプログラム学習は、スモールステップの原理に基づき学習過程を細分化して系列的に配列する点や、学習者の反応の正誤を即時にフィードバックする点などを特徴とする。
- 3 チンパンジーの問題解決過程の観察から提唱された洞察学習では、試行錯誤学習とは異なり、学習者が問題場面を構成する要素間の関係を見通して把握することにより、即座に解決に至る場合もあることが示された。
- 4 学習者が自身で試行錯誤を重ねたり報酬を直接与えられたりせずとも、他者の行動を観察することだけでその行動を学習する場合があります、これを観察学習という。

	1	2	3	4
ア	ソーンダイク	スキナー	ケーラー	バンデューラ
イ	スキナー	ソーンダイク	バンデューラ	ケーラー
ウ	ソーンダイク	スキナー	バンデューラ	ケーラー
エ	スキナー	ソーンダイク	ケーラー	バンデューラ

問19 パーソナリティの理論や検査法に関する記述として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア パーソナリティの捉え方に関する理論は類型論と特性論に大別されるが、ドイツの精神科医であるクレッチマー（Kretschmer, E.）の理論は特性論に属するものである。
- イ 多様な捉え方ができる曖昧な刺激を見せ、それに対する反応からパーソナリティや心理状態を探ろうとする検査を投影法検査と呼ぶ。
- ウ 矢田部ギルフォード性格検査はYG性格検査とも呼ばれ、ギルフォード（Guilford, J. P.）の特性論を基礎とした作業検査法の一つである。
- エ PFスタディは木の絵を描かせる投影法検査であり、ローゼンツヴァイク（Rosenzweig, S.）により考案された。

問20 次のA群には教育評価の方法に関する説明が、B群にはその種類が示されている。A群のどれにも当てはまらないものを、B群のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔A 群〕

- 1 学習者が学習内容を着実に修得できているか、つまづいているところはないかなどを確認するために学習途中で行われる評価。
- 2 学習者が自分自身で、どのようなことに努力しているか、どこがどのように成長したか、何を達成したかなどについての証拠となるものを系統的・継続的に収集し、その記録に基づいて行われる評価。
- 3 これから学習しようとしている学習内容の前提となる知識やスキルが学習者に備わっているかどうかを検討するために、学習の開始時に行われる評価。

〔B 群〕

- ア 診断的評価
- イ 形成的評価
- ウ 観点別評価
- エ ポートフォリオ評価